

2026年4月



第36期 2026年度 方針・事業計画

組織進化の転換期
～一般社団法人化への準備フェーズ～



基本情報・理念

- 1 表紙
- 2 INDEX
- 3 NAGOMU 基本理念
- 4 NAGOMU 憲章

活動・決算報告

- 5-6 第35期 活動報告
- 7 第35期 決算報告（概要）

第36期 方針・計画

- 8 第36期 予算計画（考え方・方針）
- 9 第36期 予算計画（詳細）
- 10 第36期 方針・事業計画（全体像）

第36期 重点事業・戦略

- 11 重点事業①（組織・ガバナンス）
- 12 重点事業②（人材育成・若手経営者）
- 13 重点事業③（食団連・対外連携）
- 14 重点戦略④（会員ベネフィット）
- 15 重点戦略⑤（定例活動の再定義）
- 16 第36期 到達目標

活動詳細

- 17 年間活動計画（例会・行事）
- 18 対内・対外交流事業

人材育成・組織

- 19 店長塾・人材育成施策
- 20 役員・理事名簿
- 21 第36期 組織図

会則・規定

- 22 会則（第36期改定版）
- 23 会則（続き 2/3）
- 24 会則（続き 3/3）
- 25 附則・改定趣旨



人間開発

ひとづくり

会員相互の学びと実践を通じ、
人格と経営力の向上を図る。



商売繁盛

こころのあきない

顧客・地域・従業員に誠実に向き合い、
持続的な繁栄を追求する。



社会貢献

おやくだち

食文化の継承、防災・減災の協力、
地域経済への寄与を果たす。

運営姿勢

✓ 行動指針

自主自律、現場主義、実務優先、透明性の高い運営を徹底する。

★ 第36期 重点方針

次世代育成とガバナンス強化を両輪で進める。



我々は「地域の食を守る担い手」として、以下の行動規範を遵守し、
社会からの信頼に応える組織運営を行います。

(第35期踏襲の行動規範・第36期も適用)



公正

法令遵守・会則遵守・公私峻別を徹底し、透明性の高い活動を行う。



誠実

会員・取引先・地域社会に対して、常に誠実かつ真摯に向き合う。



尊重

多様な価値観を尊重し、互いに学び合い高め合う風土を醸成する。



連携

行政・産業団体・教育機関と広く連携し、地域の課題解決に寄与する。



守秘

会員情報・経営情報・個人情報適切に管理し、秘密保持を徹底する。



安全

食の安全・衛生管理・危機管理を最優先事項として取り組む。



持続

環境への配慮を忘れず、持続可能な経営と社会の実現を推進する。



育成

次世代を担う若手人材や、将来の理事層の育成を組織的に実行する。



定例活動・行事



定例会 完了

4月～7月、9月～11月、1月～3月の全期間において予定通り開催実施。



季節行事 完了

8月：家族会を実施
12月：忘年会を実施



店長塾 実施済

年間6～7回の枠組みに基づき実施。
※各回の内容は議事録にて記録済み

対外連携・事務局



対外連携活動

食団連関係会合へ出席。
他県飲食団体との交流事業を実施。



行政連携

名古屋市等への訪問・意見交換を実施。
地域課題・業界課題の共有。



事務局運営

入退会手続きおよび会員管理業務において、ペーパーレス化を一部試行運用。

第35期 総括

計画遂行状況

年間計画はおおむね計画通りに遂行されました。
また、活動期間中における安全・コンプライアンスに関する重大な事案の発生はありませんでした（報告ベース）。

次期への課題共有

第36期に向けて、以下の分野での強化が必要との意見が共有されました。

組織ガバナンスの強化

人材育成プログラムの拡充

対外連携のさらなる推進

✓ 35期 完了

コロナ禍以降の完全正常化を果たし、次なる組織進化への土台を確認した1年となりました。

（注）詳細数値・写真・各回議事は第35期議事録・別紙資料をご参照ください。



2025年度（第35期）活動報告

2025年度 例会・行事

なごも
NAGOMU

経営セミナー 868名

4月23日（水）

122名

第341回 & 第35期総会

ロイヤルホールディングス株式会社
代表取締役会長 菊地 唯夫氏



5月30日（金）

64名

第342回

株式会社ペッパーフードサービス
代表取締役社長CEO一瀬健作氏



6月30日（月）

96名

第343回

株式会社WARA-L
代表取締役 遠山 啓之氏



7月29日（火）

71名

第344回

やぶやグループ 横瀬 武夫氏
奥志摩グループ 中村 文也氏
GENGECORPORATION 松井敬道氏



8月4日（月）

31名

BBQ家族会

リンクデल्マー

9月24日（水）

57名

第345回

マニアプロデュース株式会社
代表取締役 天野 裕人氏



10月6日（月）

49名

第346回

株式会社アホプロジェクト
泉川 武士氏
株式会社バンビエン丸山貴央氏



11月25日（火）

201名

第347回

株式会社十七商店
代表取締役 伊奈 修平氏



12月8日（月）

70名

忘年会

太閤本店

1月23日（金）

103名

第348回

株式会社DREAMON
代表取締役社長 赤塚元気氏



2月19日（木）

57名

第349回

月刊食堂
統括編集長 通山 茂之氏



3月25日（火）

48名

第350回

イートジョイ・フードサービス 桜井 博教
ブルームダイニングサービス 杉村 明紀
KINGYO 飯田 貴文
ぐっとくるダイニング 岩田 聡
AJドリームクリエイト 蓮川 昌実

123名

勉強会

7月16日（水）

SNS塾

48名

櫻井厘太郎氏

9月30日（火）

10月14日（火）

11月18日（火）

店長塾

75名

遠山啓之氏

144名

交流会

8月4日（月）

BBQ家族会

31名

11月17日（月）

ゴルフコンペ

22名

12月8日（月）

忘年会

70名

3月10日（火）

研修旅行（新潟）

21名



第35期 決算報告（概要）

Financial Report Summary FY2025

NAGOMU

2025年度 収支決算表

単位：円

科目	予算	決算	差異
<収入の部>			
1. 会費収入	6,660,000	6,222,000	△ 438,000
2. 経営セミナー参加料	5,065,000	6,386,000	1,321,000
3. その他収入	150,020	153,354	3,334
4. 前年度繰越金	1,927,471	1,927,471	0
収入合計	13,802,491	14,688,825	886,334
<支出の部>			
1. 経営セミナー開催費	4,135,000	6,019,998	1,884,998
2. 事務局運営費	4,080,000	4,070,000	△ 10,000
3. 活動経費	2,360,900	2,026,160	△ 334,740
4. 会員サービス費	1,710,000	1,327,358	△ 382,642
支出合計	12,285,900	13,443,516	1,157,616
次年度繰越金	513,091	1,245,309	732,218

監査報告

意見：適正

第35期 会計監査

証憑・帳簿を適正と認める

監査人：NAGOMU監査委員会

監査日：2026年3月31日



承認事項（総会付議）

- 第35期決算書の承認**
 本収支決算表記載の通り、年間活動に基づく収支結果を確定する。
- 剰余金の次期繰越**
 次年度繰越金（1,245,309円）を第36期の活動原資として繰越処理する。
- 決算附帯事項の承認**
 軽微な科目振替等の決算処理について確認し、これを承認する。

特記事項

- 金額・科目内訳の詳細については「決算別紙」にて保管・管理しております。
 本総会では、当スライドに記載された概要数値の範囲において報告および承認を行うものとします。



基本方針

↓ 収入予算の考え方

年会費を基軸とした保守的な見積もりを採用。協賛金については前期実績ベースで積み上げ、不確実な収入は見込まない。

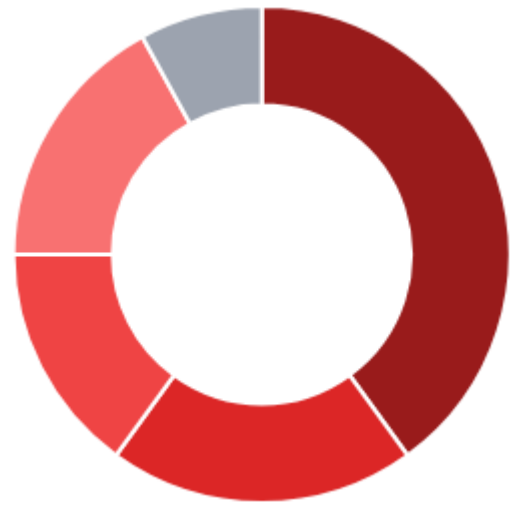
↑ 支出予算の重点配分

「例会・行事」および「人材育成・対外連携」に重点的に資源を配分。事務局のDX投資は段階的に実行する。

🛡️ 予備費の確保

防災・広報・法務対応などの突発的な支出に備え、予算総額の一定比率（5-10%）を予備費として確保する。

予算配分目安



- 例会・行事 (35-45%)
- 育成 (15-25%)
- 対外・連携 (10-20%)
- 事務局・DX (15-20%)
- 予備費 (5-10%)

運用ルール

🔄 四半期レビュー

3ヶ月ごとに執行率と費用対効果を点検し、状況に応じて配分を微修正する柔軟な運用を行う。

📝 稟議・承認フロー

支出承認フローを文書化し、電子稟議システムへの移行を進めることで、透明性と迅速性を確保する。

🔍 監査体制

一般社団法人化を見据え、会計基準の見直しと監事による定期的なチェック体制を強化する。



第36期 2026年度 予算計画 (詳細)

Budget Plan for FY2026

NAGOMU

↓ <収入の部>

項目	2026年度予算	2025年度実績 (参考値)	差異
1. 会費収入	7,056,000	6,222,000	+834,000
1) 正会員	4,104,000	-	-
2) 賛助会員	2,952,000	-	-
2. 経営セミナー参加料	5,180,000	5,995,000	△815,000
3. その他収入	153,000	153,354	△354
当期収入小計	12,389,000	12,265,354	+123,646
4. 前年度繰越金	1,245,309	1,927,471	△682,162
収入合計	13,634,309	14,688,825	△1,054,516

↑ <支出の部>

項目	2026年度予算	2025年度実績 (参考値)	差異
1. 例会開催費	5,350,000	6,019,998	△669,998
2. 事務局運営費	4,080,000	4,070,000	+10,000
3. 活動経費	1,150,500	2,026,160	△875,660
4. 会員サービス費	2,520,000	1,327,358	+1,192,642
※DX化予備費含む	1,000,000	-	-
※コンプラ遵守検討費	500,000	-	-
※一社設立費含む	150,000	-	-
当期支出小計	13,100,500	13,443,516	△343,016
5. 次年度繰越	533,809	1,245,309	△711,500
支出合計	13,634,309	14,688,825	△1,054,516

📌 予算編成のポイント (第36期方針との連動)

- ✓ 一般社団法人化準備: 会員サービス費内に「一社設立費 150,000円」「コンプラ遵守検討費 500,000円」を新規計上
- ✓ DX推進投資: 会員サービス費内に「DX化予備費 1,000,000円」を計上し、事務局業務のシステム化を支援
- ✓ 会員基盤拡大: 会員数181社 (正会員100社・賛助会員81社) から新会員30社を見込み、安定的な財務基盤を構築

NAGOMU記念事業積立金

1,159,045円

※2026年4月8日 理事会承認済



第36期の位置づけ

組織進化の転換期 ～ 一般社団法人化の準備フェーズ～



01

組織基盤・ガバナンス再構築

社団化準備・DX・ペーパーレス化による透明性と効率性の向上



02

若手経営者の獲得・育成

次世代理事層の基盤構築と持続可能な組織体制の確立



03

食団連・対外連携の強化

愛知・岐阜・三重広域連携による会員ベネフィット創出

🚩 運営原則

- ✔️ プロセスの標準化・透明化
決定は文書化、プロセスは標準化、データは一元管理
- ✔️ 会員価値の最大化
学び・商機・信頼の創出を意思決定基準とする

🚩 年間マイルストーン

Q1

計画確定
体制整備
要件定義

Q2

制度導入
DX試行
規程策定

Q3

効果測定
運用拡充
修正・改善

Q4

次期計画
移行判断
新年度準備



◎目的

一般社団法人化を見据え、**組織基盤と統治**を抜本的に強化する。

次世代への円滑な継承と、社会的信用の確立を目指す転換期における最重要課題。

プロジェクト責任者

杉村 明紀

副理事長

DX・ペーパーレス・社団化準備・横断サポート

事務局統括

システム化

法務対応

📌 役割

実務のデジタル化と法的な組織形態移行の準備を主導し、持続可能な運営体制を構築する。

☑️ 実行項目

🚀 法人化準備委員会の設置

定款骨子の作成、役員構成の検討、移行スケジュールの策定を行うとともに、行政・食団連等の関係団体へ法人化を前提とした説明を実施する。

👥 会員・入退会管理のシステム化

会員台帳の完全電子化、権限管理の適正化、更新プロセスの自動化。

📁 事務局業務の標準化

稟議・支払・文書管理の電子化により、属人化を排除し効率化を図る。

📄 ペーパーレス化推進

議案書・議事録・領収証の電子保存を徹底し、印刷・郵送コストを削減。

🛡️ リスク管理強化

個人情報保護方針の改定、情報セキュリティ対策、BCPの策定。

🚩 年間マイルストーン

Q1



準備・選定
✓委員会発足
✓システム選定

Q2



導入・策定
✓新フロー試行
✓定款骨子作成
✓関係団体説明

Q3



本番運用
✓電子稟議完全移行
✓移行計画詳細化

Q4



次期決定
✓移行可否判断
✓第37期総会提案



第36期 重点事業②

人材育成・若手経営者（次世代理事層の基盤構築）

NAGOMU

目的・方針

若手経営者の獲得・育成により 次世代理事層の基盤を構築する

組織の持続的発展のため、次世代を担うリーダーの発掘と育成を最優先事項とし、学びと交流の場を再構築します。

プロジェクト責任者

岩田 聡

副理事長（人材育成担当）

人材育成

店長塾

交流事業

役割

若手経営者の獲得・育成により次世代理事層の基盤を構築する。

主要実行項目



店長塾の継続・進化

年6～7回の開催。現場と経営視点のバランスを考慮したカリキュラム。



会員増強施策

若手経営者をターゲットにNAGOMUならではの訴求価値を再定義。



メンター制度設計

先輩経営者による伴走支援。個別目標設定と定期的な振り返り。



参加促進・活性化

例会での登壇機会創出や、繁盛店の現場見学会導入による意欲向上。

推進体制・評価

担当理事

▶ 店長塾

飯田 理事、吉岡 理事
竹内 理事、浅野 理事

▶ 家族会・対内交流

飯田 理事、吉岡 理事
竹内 理事、浅野 理事

四半期評価指標

- ✓ 出席・継続率
- ✓ 登壇数
- ✓ メンターマッチ数



重点事業③ 食団連・対外連携

第36期 重点施策

NAGOMU

目的

東海3県連携により、**飲食業界の支援体制を強化・創出する。**

単なる親睦を超え、行政・他団体と協働することで、一企業では解決できない地域課題や経営課題に取り組む「プラットフォーム」となる。

プロジェクト責任者

松岡 信希

副理事長（対外交流・連携担当）

食団連

他県連携

行政

役割

他県団体・行政・食団連との架け橋として広域連携を統括する。

実行項目・推進体制



食団連との連携

情報共有および共同事業の企画・実施により、全国規模の知見を地域へ還元。



行政連携の深化

名古屋市・愛知県等と防災・人材育成・食文化継承領域での協働プロジェクトを推進。



他県交流・研修旅行

大阪（ORA）等の先進団体との交流会や、視察研修旅行を通じた学びの機会提供。



体制・担当

- ▶ 居酒屋甲子園関連 杉 理事、金 理事
- ▶ 他県飲食団体交流 金 理事、柳原 理事
- ▶ 研修旅行 杉 理事（杉村副理事長サポート）

岐阜

三重

NAGOMU



行政

成果指標 (KPI)

共同事業数年間 3件以上

参加社数前年比 120%

個別案件担当

- | | |
|------|-------------|
| 食団連 | 保坂 理事長 |
| 三重支部 | 金 理事 |
| 岐阜支部 | 松岡 理事、一柳 理事 |



重点戦略④ 会員ベネフィットの再設計

参加価値の最大化と好循環の創出

NAGOMU

目的

会員がNAGOMUに所属する
意義を明確にし、
「入っていて良かった」
と実感できる団体となる

目指す成果

- ✓ 会員満足度・継続率の向上
- ✓ 紹介による会員増強（好循環）

実行プロセス

1

調査

アンケート実施
ニーズ把握

2

設計

ベネフィット
整理・明文化

3

改善

例会・勉強会
コンテンツ刷新

i

情報提供

業界動向・行政情報の速報
補助金・助成金情報の整理
食団連携による最新知見



人的ネットワーク

経営者同士の相互研鑽
メンター制度による相談機会
異業種・地域間連携の創出



対外的信用

加盟店ステッカーの価値向上
コンプライアンス遵守の証明
地域社会でのプレゼンス確立



実務支援

共同購買・サービス優待
店長塾等の人材育成プログラム
専門家（士業等）への相談窓口



重要業績評価指標

会員継続率・満足度

90%以上



重点戦略⑤ 定例活動の再定義

例会・勉強会・交流会の質的進化と戦略連動

NAGOMU

🎯 目的と基本方針

Mission

活動の質的進化

これまでの活動実績をベースに、目的と成果を再定義し、組織戦略と完全に連動した質の高い活動へと昇華させる。

⚡ 選択と集中

限られたリソースを重点分野へ投下し、散漫な活動を排除する。

🗣️ 対外発信意識

登壇者やテーマ設定において、NAGOMUのプレゼンス向上を意識した構成とする。

👥 対象別内容整理

参加者の属性に合わせ、提供価値を明確化する



経営層

業界動向、経営戦略、時流予測



若手経営者

実務スキル、メンター支援、同世代連携



現場責任者

オペレーション、店長塾、人材管理

⚙️ 運営サイクル

PLAN

狙いの明確化

開催意義の事前定義



DO

連携の実践

食団連・行政との協働



CHECK

成果の可視化

学び・つながりの記録



組織進化の転換期における4つのゴール

第36期終了時点において、以下の4つの状態が実現されていることを目指します。



GOAL 01

法人化ロードマップの確立

一般社団法人化に向けた具体的な計画、定款骨子、移行スケジュールが理事会・総会で合意され、スムーズな移行準備が完了している状態。



GOAL 02

次世代理事候補の明確化

若手経営者層の獲得と育成プログラムを通じ、次期の理事・運営を担うリーダー候補者が明確になり、組織の新陳代謝の土台ができている状態。



GOAL 03

代表的団体としての認知

食団連との連携実績や行政への提言活動を通じ、東海エリア飲食業界の代表的団体として、対外的に広く認知・信頼されている状態。



GOAL 04

好循環サイクルの創出

会員企業がNAGOMUの提供価値（ベネフィット）を実感し、高い継続率の維持と、会員からの自発的な紹介による入会が生まれる好循環にある状態。



年間活動計画

2026年度 例会・行事スケジュール

なごも
NAGOMU



年間スケジュール

4月 担当:杉村副理事長・吉岡実行委員長

第351回 & 第36期総会

株式会社ユニシアホールディングス
代表取締役 会長兼社長 貫 啓二氏

5月 担当:岩田副理事長
飯田理事・杉理事・水野理事

第352回

サキアジ株式会社
代表取締役 谷口 泰崇氏

6月 担当:松岡副理事長
金理事・青木理事

第353回

株式会社絶好調
取締役副社長 松村 康夫氏

7月 担当:杉村副理事長
吉岡理事・竹内理事・柳原理事

第354回



8月

家族会

会員家族・従業員との親睦

9月 担当:岩田副理事長
一柳理事・浅野理事

第355回



10月 担当:松岡副理事長
飯田理事・金理事

第356回

三重開催 (予定)

11月 担当:杉村副理事長
杉理事・柳原理事

第357回

居酒屋甲子園連携 (予定)

12月

忘年会



1月 担当:岩田副理事長
水野理事・浅野理事

第358回



2月 担当:松岡副理事長
青木理事・一柳理事

第359回



3月 担当:杉村副理事長
飯田理事・竹内理事

第360回



特記事項・検討事項

地域開催

三重・岐阜開催の検討

- ✓ 支部発足を見据えた地域開催のトライアル
- ✓ 開催方式を検討

対外連携

他団体来訪時の対応

- ✓ 他県団体等の視察がある場合、通常例会に組み込み交流会とする可能性あり



対内・対外交流事業

Inter-Organizational Exchange & Cooperation

なごも
NAGOMU



対内交流事業

レクリエーション

年1回

ゴルフ交流会等

👥 会員相互の親睦を深める懇親の場

ファミリー

8月開催

家族会

♥ 経営者を支えるご家族への感謝と交流

👤 担当: 竹内理事・柳原理事

人材育成

年3~4回

店長塾

👤 現場責任者の育成と店舗間ネットワーク構築

👤 担当: 竹内理事・浅野理事



対外交流事業

視察・研修

年1回

他県飲食団体交流（研修旅行）

📍 行先・目的設定・視察先を事前に合意形成

📍 他地域の先進事例に学ぶ実地研修

👤 担当: 杉村副理事長・金理事・杉理事・柳原理事

業界連携

通年

食団連・行政連携

✓ 食団連関係会合への出席
出席レポートを全会員へ共有

✓ 行政訪問（名古屋市等）
政策提言・情報交換の実施

👤 担当: 保坂理事長・石丸



成果管理

交流事業の価値を可視化し、
次年度企画へフィードバック

📊 定量指標

- ✓ 参加社数・参加率
- ✓ 商談化・マッチング件数

💬 定性指標

- ✓ 参加者満足度
- ✓ 具体的な学びの記録





NAGOMU店長塾

年3回開催予定

現場リーダーの実務能力向上とマインドセット醸成を目指すプログラム構成案

数値管理基礎

労務・法令遵守

衛生管理・HACCP

原価管理・購買

サービス・クレーム対応

採用・人材育成

店長のリーダーシップ・チームビルディング

実施体制

飯田 理事

吉岡 理事

竹内 理事

浅野 理事

※詳細な担当分担は第1四半期に確定

若手経営者育成

✓ メンター制度の導入

先輩経営者による伴走支援、個別目標設定と定期的フィードバックの仕組み化

✓ 次世代理事候補育成

候補者の推薦・選考フローの策定と、委員会活動への参画促進



役員・理事名簿

Board Members List FY2026

なごも
NAGOMU

理事長
保坂 元気

株式会社マ・メゾン
取締役社長

副理事長
杉村 明紀

株式会社ダブルアールプランニング
代表取締役

副理事長
岩田 聡

株式会社ぐっとくるダイニング
代表取締役

副理事長
松岡 信希

有限会社一心
代表取締役

理事・役員一覧

役職	氏名	会社名・役職
理事	一柳 ひかる	株式会社アイ・ビー・エス 専務取締役
理事	吉岡 裕太郎	株式会社ヨシックスホールディングス 専務取締役
理事	金 龍植	株式会社ONDRグループ 代表取締役
理事	飯田 貴文	株式会社KINGYO 代表取締役
理事	水野 由太佳	株式会社マリノ 代表取締役
理事	杉 敏行	株式会社やんばよう 代表取締役
理事	青木 裕典	有限会社山本屋 専務取締役
理事	加藤 正崇	株式会社時今 代表取締役

役職	氏名	会社名・役職
理事	浅野 奈保子	キリンビール株式会社 販売促進統括本部中部圏第1支社 支社長代理
理事	竹内 大介	サッポロビール株式会社 愛知外食営業部
理事	柳原 瑞樹	サントリー株式会社 東海支社 東海北陸営業部 営業企画部 外食ビジネスサポート担当
相談役	櫻井 博教	株式会社イトジョイ・フードサービス 代表取締役社長
渉外担当	安口 倫代	株式会社リンコネクト 代表取締役
事務局長	石丸 泰雄	株式会社石丸商店 代表取締役
顧問	松井 敬道	株式会社GENGE CORPORATION 代表取締役
顧問	稲垣 純平	有限会社Bフードサービス 代表取締役
顧問	中村 文也	株式会社奥志摩グループ 代表取締役会長



第36期 組織図

Organization Chart & Responsibilities

なごも
NAGOMU

保坂 理事長 (理事会)

組織基盤・ガバナンス 杉村 副理事長

DX・システム化

入退会管理・会員管理・事務局業務のシステム化推進
ペーパーレス化の実行

組織再編

一般社団法人移行に関する諸対応
定款・規程類の整備

サポート

他副理事長の横断的サポート
研修旅行支援 (with 杉理事)

対内交流・人材育成 岩田 副理事長

店長塾・育成

飯田理事、吉岡理事、竹内理事、浅野理事

交流事業

家族会

竹内理事、柳原理事

ゴルフ・対内交流

飯田理事、吉岡理事

会員増強

施策内容検討・推進

対外交流・連携 松岡 副理事長

イベント・交流

居酒屋甲子園関連

杉理事、金理事

他県飲食団体交流

金理事、柳原理事

研修旅行

企画・運営 (杉理事・杉村副理事長サポート)

地域支部・特務担当

食団連

保坂理事長、石丸

三重支部

金理事

岐阜支部

松岡理事、一柳理事



会則（第36期改定版）

Articles of Association (1/3) - 第1条～第8条

なごも
NAGOMU

第1章 総則 および 第2章 会員

第1条 名称

本会は、NAGOYAグルメショップ経営連合（英名：Nagoya Gourmet Shop Management Union、略称：NAGOMU）という。

第2条 目的

本会は、飲食業の健全な発展、人材育成、食文化の向上、地域経済への貢献を目的とする。

第3条 活動年度

本会の活動年度は、毎年4月1日より、翌年3月31日までとする。

第4条 事務所

本会の事務所は名古屋市内に置く。

第5条 事業

目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 例会・研究会の開催
- (2) 人材育成（店長塾等）
- (3) 対内外交流
- (4) 行政・団体との連携
- (5) 広報・刊行
- (6) その他目的達成に必要な事業

第6条 会員の種類

会員は、正会員と賛助会員の2種類とする。

- (1) 正会員：本会の目的に賛同する飲食店を営む法人組織または個人経営者
- (2) 賛助会員：本会の活動に協力・支援するメーカー・食材卸・店舗設計等の飲食関連企業

第7条 年会費

正会員：36,000円 賛助会員：36,000円

年度の途中において入会したものは、月割りにより年会費を納入する。この場合1ヶ月未満の端数は1ヶ月とする。会費の滞納が3ヶ月以上続いた場合、理事会の決議により除名することができる。

第8条 会員登録期間

会員登録の期間は、初年度は登録月の1日から年度末(3月末日)までとする。

次年度以降は4月から翌年3月までを1ヵ年とし、会員から退会の申し出がない限り、1年単位で自動更新される。自動更新の停止を希望する場合は、3ヶ月前までに事務局に申し出る必要がある。



第3章 役員・組織 および 第4章 運営・管理

第9条 理事会

理事会は会務を執行し、総会に付議する事項を審議決定する。議決は出席理事の過半数をもって決する。

第10条 理事長

理事長は本会を代表し会務を統括する。副理事長は理事長を補佐し、必要に応じてその職務を代行する。

第11条 監事

監事は会計及び業務の監査を行い、その結果を総会に報告する。

第12条 事務局

事務局は会員管理、会計、記録管理等の事務を担う。業務効率化のため、電子稟議・電子保存を積極的に推進する。

第13条 会計

会計は会計年度毎に収支予算及び決算を作成し、総会の承認を受ける。会計基準は一般社団法人移行を見据えた様式とする。

第14条 役員の定数

1. 理事会を構成する各役員の定数は以下のように定める。(1)理事長 1名 (2)副理事長 2名以上 (3)理事 3名以上 (4)専務理事（事務局長）1名。
2. 理事会構成員の総数は、7名以上16名以内とする。

第15条 資産

本会の資産は会費、寄附金、事業収入、その他収入で構成し、本会の目的の範囲内でのみ使用する。

第16条 個人情報・守秘

会員情報・営業情報等の管理を徹底し、委託先の管理も含め適切に取り扱う。会員は活動を通じて知り得た秘密を漏らしてはならない。

第17条 コンプライアンス

法令・公序良俗・独禁法等を遵守し、不当な取引制限やカルテル行為には一切関与しない。

第18条 懲罰

本会の名誉を著しく傷つけた会員に対し、理事会の議決を経て総会の決議により、戒告・会員資格停止・除名を行うことができる。

第19条 紛争解決

会則に定めのない事項や解釈に疑義が生じた場合は、理事会で誠意をもって協議のうえ、総会で最終決定する。

第20条 役員の任期

役員の任期は1年とし、再任は妨げない。



会則（第36期改定版）

Articles of Association (Continued)

なごも
NAGOMU

第5章 運営・管理

第21条 電子化・DX

会員管理、稟議、議事録、会計証憑等の電子化・電子保存を原則とし、業務の効率化と透明性を図る。

第23条 委員会

理事会は必要に応じ、ガバナンス、人材育成、対外連携等の専門委員会を設置することができる。

第6章 連携・その他

第24条 地域支部

本会は、愛知・岐阜・三重に地域支部を設けることができる。支部の運営に関する規程は理事会で定める。

第26条 利益相反

取引・事業に関し理事等が特別の利害関係を有する場合、当該理事はその議決に参加することができない。

第28条 解散

本会の解散は総会の特別決議による。解散時の残余財産の帰属は総会の議決で定める。

第30条 施行期日

本会則は2026年4月1日より施行する。

第22条 情報公開

予算・決算・議事録の要旨を会員に公開し、運営の透明性を高めるものとする。

第25条 寄附・協賛

寄附金・協賛金の受入については基準を定め、利益相反を回避し、公平性を維持するものとする。

第27条 事故・災害

災害時の相互支援体制を整備し、行政との連携を推進する。必要な協定を締結できるものとする。

第29条 会則改正

本会則の改正は、総会において出席会員の3分の2以上の同意（特別決議）を得なければならない。



附則・改定趣旨

第36期 会則改定

なごも
NAGOMU

第36期 改定趣旨

01 社団化準備

一般社団法人定款に準拠した条文整備を行い、資産・会計区分を明確化することで、スムーズな法人格移行を実現するための基盤を構築。

02 ガバナンス強化

組織の社会的信用を高めるため、利益相反取引の制限、情報公開の義務化、監査機能の強化に関する条項を新設。

03 DX推進

業務効率化と透明性確保のため、電子稟議、電子議事録、会計証憑の電子保存およびセキュリティに関する条項を明文化。

04 地域連携・支部

愛知・岐阜・三重の広域連携を制度的に担保するため、支部設置および運営規程の根拠となる条項を整備。

附則

↔ 法人化移行時の特例

一般社団法人化移行時は、本会則を定款に読み替え、法令に適合させるための必要な改定を遅滞なく行うものとする。

📄 事務局DXの段階導入

事務局DX（電子稟議・電子保存等）は第36期内に段階的に導入・試行し、第37期より本格運用を開始する。

📍 地域支部の運用

地域支部（愛知・岐阜・三重）の具体的な運用細則については、理事会にて第36期第2四半期（Q2）までに策定する。

施行期日

📅 2026年4月1日

本総会での承認をもって確定とする